800人。町では、団塊町内在住の団塊の世代は

の

きがいづくりを応

いる遊休農地の舌月ニ;っの高齢化などによって増えての高齢化などによって増えて座では、町の財産である豊か座では、町の財産である豊かの場合の利用までの前期講

習で学びました。

受講生は、

野

菜づくり

の

野菜づくりコー

ス

|講されました。 52歳なばと、「野菜づくりコー

٤

講 農 68 が が 師 業 歳 開 れ の を の 講 ば

を専門に教えておられたの37人が参加し、高校で

指導のもと、

野菜づく

礎を月2回の講義と実

展業体験をとおして、

地域づくり

中橋 弥里

湊 悦子

養成

/ 講座」「

講

||座」などを行「ふれあいうど

シニアパワーを地域に生かす

セカンドライフの生きがいづくり



シニアファーマー前期講座では、野菜の育て方や肥料の与え方、 害虫駆除などを講義で学び、実際に万善地区にある1,500㎡の畑で栽 培しました。

受講生は、畝づくりや苗の植え付け、キュウリのネット張りなど 生育に合わせたさまざまな作業を行い、暑い中での除草や水やりも 協力しながら交代で取り組みました。

自然の中で手塩にかけた野菜は、太陽の光をいっぱいあびて元気 に育ち、9月までにトマト4,100個、キュウリ9,600個、ナス3,000個 もの夏野菜が収穫できました。

受講終了後も自主的に班ごとで野菜づくりを続け、中には家庭菜 園を始められた夫婦もあり、健康で充実した毎日を送られています。

受講生の声



白金在住の鎌田武史さんは「中級講座 が開催されれば、また皆さんと一緒に受 講したいと話しています。新鮮で安心し て食べられる野菜を作り、猪名川ブラン ドとして地域の人達に提供できる日が来 ればうれしいです」といきいきとした表 情で語られました。

夫婦で参加されている白金在住 の曽我治由・美和子さん夫妻は 「畑で完熟したとれたての野菜は、 野菜本来の甘みが強くとてもおい しいです。調理方法を工夫したり、 皆さんとおいしい食べ方について 教えあったりしています。自分達

(I

9誰でも気軽に参加できるり講座」はシニア世代の人ァ回紹介した「生きがいづ

ル

5

でのて、広い

味紙す

興

や意

欲

の

あ

てみてはい

参 の

今

1友 補

記集

けか参座

D合えるような地域づくりから大人までが気軽に声を参加して得た経験を、子ど



でつくった新鮮な野菜をご近所の人達におすそ分けして、 大変喜んでいただきました」と話されました。

ふれ

あ

全ア となってもらいたいと うどんを通じてコミュニティづくり を通して地

いうどん指導 安 域 」ソを学んでいた、楽しみながらもくりで人の輪を広げることで、 ので人の輪を広げることで、 がました。 ます。 真剣に技ながれば-

あるハタケシメジが

今回は、町の生きがいづくり講座を取材し、意欲あふ生きがい、そして家族と仲間だと言われています。ア世代が毎日を楽しく過ごすために必要なのは、健康と仕事や子育てを卒業し、自由な時間を手にいれたシニで充実したセカンドライフへの関心が高まっています。団塊の世代が定年退職の時期を迎えるにあたり、健康団塊の世代が定年退職の時期を迎えるにあたり、健康 れるシニア世代の皆さんにおり今回は、町の生きがいづく

り講座として「シニアファー度は、講演会や生きがいづくがいづくり室を設置し、今年援しようと、昨年4月に生き生きがいづくりを積極的に応 のうち約7割の人が農業体験ケート調査を実施し、回答者1000人を対象としたアン世代を中心に50歳から60歳代 このニー に関心があると答えました。 シニアファー ズに応えると同時 マー

養成講座

す。
まだまだ体力も充実してつながると期待されているがると期待されていることをいっていることをいっていることをいっていることをいるがると期待されているがると期待されているがると期待されているがると期待されているがると期待されているがると期待されているがると期待されているがると知行されているがると知行されている。 いました。 が指導者養成業 がると期待されていまきと暮らせる町づくり ĺ

(農業体験講座 uがいを見つv持っている くことで、 その力を を

きのこ栽培コー

ス

から

こ

いたいと「きのこちらうないと」でもいまってもいまっても知ってもらった。町の特産品でもあるシーでは、町内に残る里山を保圧では、町内に残る里山を保圧が、町内に残る里山を保圧が、町内に残る里山を保 全 座 し、 は、 T T)はじまっ. た後 期

メコやハタケシメジの栽培に講生は、シイタケをはじめナが行われています。18人の受

本 つ シ 格い 行的に勉強しています。いて、専門家の指導の+

もと

イタケ のに時 時間がかかるので来ケは、原木に菌がま

わる

لا د

な~ ふれあいうどん指導者養成講座

べられそうです。たえがあるハタケは、シャキシャキ ャキシャキとした歯ごの収穫ですが、5月に

て、自然の中で気持ちのよいう喜びを満喫しました。そし手で育てた新鮮な野菜を味わ の親交も深まりました。して作業をする中で参加 くりにも役立ち、 しさと楽しさを か いての農作業は健 知 ıΣ 緒 者協問力

とや、これから定年を迎える野菜づくりの担い手となるこけではなく、将来的に地域でを高めて趣味として楽しむだをらに、野菜をつくる技術さらに、野菜をつくる技術 広がります。とを生かしてい 人達に指導し たり、 学ん 夢

編に に 協康 する

をのばす受講生実習も終盤にか

かかり、 手際よくうど んの生地

交流を深めるうどんづくり

取材の日、受講生は塩水や小麦粉を手際よく計量 し、和気あいあいと話をしながら300回もの生地踏み を軽やかにこなしていました。今回はうどんのだし づくりにも挑戦し、一番だしや二番だしの取り方、 だしの保存方法についても教わりました。

つつじが丘在住の花吉通昭さんは「自分達で打っ た手づくりのうどんはこしがあり、かつおの効いた だし汁でいただくと大変おいしいです。これからは、 地域の子ども達と一緒にうどんづくりをしながら、 子ども達といろんな思いを共有できればうれしいで すね」と笑顔で話されました。



たシニアファー 掲載の予定ですの 参加者募集は4月 SD開催も予定され からさらにレベ いに支えあ かです る人は、 か。 マ え 2100 本紙は古紙配合率100%の紙に、植物性大豆油インキで印刷しています

なお、4月からさらに-る町になると素敵ですね。に生かし、お互いに支えを